

地域おこしのプロフェッショナル 仕事の流儀

vol.11 池田町 福家 菜緒 さん



~PROFILE~

池田町 福家 菜緒 さん

出身：徳島市

前職：北海道大学技術補佐員

趣味：山登り、写真、湿地歩き

1 地域おこし協力隊になったきっかけは？

十勝管内で環境保全型の林業ができるところを探していた時、偶然池田町で地域おこし協力隊を募集していました。池田町には40~50年人の手が入っていなかった町有の広葉樹の天然林が多くあります。町としてそれらの森を活かした森林管理を展開しながら、地域の産業として独自の林業を推し進めていく道を模索する中での人材募集でした。町のバックアップを受けながら、しかも**自分がやりたいと思っていた林業ができる環境**だったため、これだ！と思って応募しました。

2 日々の活動内容を教えてください。

現在の活動としては、池田町大森地区で、50年放置されていた天然林230町の一部を借りて、間伐の準備をしています。具体的にはバックホーという重機を使って、木材を運び出すための作業道を付けたり、その際に支障となる木をチェーンソーで切ったりしています。十勝管内だとカラマツな



どの針葉樹を一面に植えて伐期を迎えたら全て収穫し、再び造林する、という施業方法が一般的です。一方で我々の実践している森林施業では、今ある木を少しずつ間伐（間引き）して、それらを売って継続的に利益を出します。さらに背の高い木を間引くことで森の中まで光が差し込みやすくなり、中層、下層に生育する次世代の木を育てること

ができます。また、天然林のように様々な種類の木が生育することで、例えばある樹種特有の病気が広がったとしても他の樹種は生き残ることでリスク分散が可能になり、長期的に森を保つことができます。また今後の樹種ごとの市場価値の変動も考えられるため、多様な樹種の存在が森全体の価値を高めます。そのようなことを考えながら、**100年、200年先まで継続する森を目標**に活動しています。

3 お子さんがあるなかで、不安なことは？

仕事中の怪我が一番心配です。伐木や道付け作業は怪我がつきものなので、常に気を張って緊張しながら作業しています。一日の作業が無事に終わるとホッとします。また、林業といえば日の出とともに仕事が始まる、というイメージですが現在実践している林業では時間の使い方に融通が利くので、助かっています。朝が早いと子供の預け先がない場合もあり、林業を一度諦めかけましたが、今のような林業の形に出会えて良かったですし、同じような境遇の方がいたら今後私の事例が参考になれば嬉しいです。

4 今後の展望・目標について教えてください。

これまでの社会経験を活かし、**森林環境教育に力を入れていきたい**です。今年からNPO 法人トカブチの森の会員になり、川田工業の社有林で地元の園児や小学生に対して森林体験プログラムを展開しています。ゆくゆくは森林環境教育と林業の2つの軸を複業として展開していきたいです。そうすることで収入面の安定を図り、また林業で怪我をした際のリスクにも備えられると考えています。

5 池田町の魅力について教えてください。

自然が濃厚なところです。家の前には小麦畑が広がり、そこにタンチョウがいて、ハクチョウの群れが家の上を渡っていく環境はとても贅沢です。自宅から星もたくさん見えます。地元の方は見慣れているようですが、今でも感動します。夕方、子供と利別川の堤防まで車で行き、ワイン城に夕陽が当たる様子を眺める時間も好きです。休日は子供を森に連れて行き野鳥や山菜を探したり、森に設置したブランコに乗せたりして、自然が好きになるよう仕向けています（笑）。

